


## 見える化シート

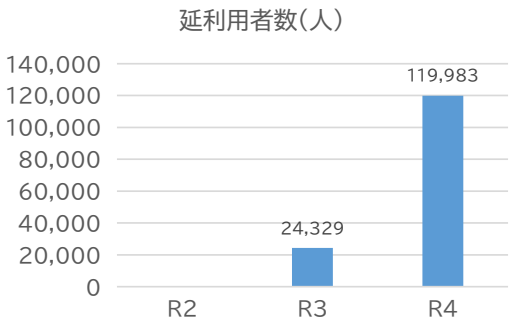
基準日

令和5年3月31日現在

## 基本情報

施設名称	美術館	
所在地	八戸市大字番町10番地4	
所管部署	美術館	
設置の目的	美術品等の収集、保管及び展示並びに美術等に関する調査研究及び普及活動を行うことにより、市民の文化及び芸術の振興に資するとともに、文化芸術活動を通じた様々な出会い、学び及び交流の機会を提供し、新たな文化の創造と八戸市全体の活性化を図るための拠点として設置するもの。	

## 管理・運営の概要

土地	土地面積	5,311.21	m <sup>2</sup>	所有状況	市有地			
	用途地域	商業地域						
建物	建物名称	美術館						
	建築年月日	令和3年1月8日						
	延床面積	4,844.95	m <sup>2</sup>	構造	鉄骨造	階数	地上 3	地下 -
	整備費用	3,339,650	千円	財産区分	行政財産			
	耐震診断	不要		診断結果	-			
運営	開館時間	10:00~19:00						
	休館日	毎週火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始						
	開館日数(日)	R2	-	R3	102	R4	311	<p>延利用者数(人)</p> 
	運営形態	直営						
利用	主な利用者	市民(全市的)		観光客		文化芸術団体		
	延利用者数(人)	R2	-	R3	24,329	R4	119,983	
	1日当たり利用者数(人)	R2	-	R3	239	R4	386	
	利用料金	入館料 無料(企画展観覧料は展覧会ごとに異なる)			貸館利用料	八戸市美術館条例による		

※令和3年11月3日開館

※利用料金の詳細については施設ホームページに掲載。

駐車場の有無					職員数(人)	
駐車場の有無	無	自動車	-		正職員	会計年度任用職員等
利用時間	-	原付・バイク	有			
入出庫時間	-	自転車	有		12	8
バリアフリーの状況					自家発電設備等	
車いす駐車場	出入り口のスロープ	障害者用エレベーター	オストメイト対応トイレ		自家発電設備	再生可能エネルギー設備
○	○	○	○		○	-
災害指定避難						蔵書数(冊)
指定緊急避難場所					指定避難所	
洪水	土砂	地震	大規模な火災	火山		
-	-	-	-	-		

施設運営費の状況		(単位:千円)						
		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
			地元 発注率		地元 発注率		地元 発注率	
支出	人に係る経費	-	/	93,553	/	96,436	/	
	企画運営費	-	-	36,877	26%	72,012	65%	
	施設の維持管理費		-	-	108,921	53%	140,408	57%
		うち、光熱水費	-	/	27,211	/	36,270	/
		うち、委託料	-	-	68,091	78%	92,533	85%
	合計	-	/	239,351	/	308,856	/	
収入 (財源)	使用料	-		11,722		14,590		
	その他	-		8,402		13,926		
	一般財源	-		219,227		280,340		
	合計	-		239,351		308,856		
施設運営費の特徴				支出経費の構成割合(令和4年度)				
<p>1. 人に係る経費 展覧会開催や美術作品の調査研究・収集保存など企画運営業務に9人、施設の日常的な管理や貸館対応、広報など総務経營業務に9人の職員が従事しています。企画運営業務には学芸員等の専門員を配置しているほか、1日の開館時間が本庁と比較して長く、また休館日が少ないことから、1日2交代のシフト制とすることで、開館時間は常時一定人数の職員を配置するようにし、運営に支障をきたさないようにしています。</p> <p>2. 企画運営費 年に3回程度開催する大型の展覧会開催にかかる経費及び、集客を図るための新聞・テレビ等への広告掲出に一定の経費を要しています。</p> <p>3. 施設の維持管理費 収蔵品や展示品の適切な管理のため、24時間の空調運転・温湿度管理が必要となり、これに伴う光熱費及び、機器の保全を図るための委託料を要しています。また、貸館受付やチケット販売等の総合案内業務、展示室の監視業務等に一定の経費を要しています。 ※令和4年度から通年ベースでの営業となったため、警備・清掃業務や総合案内業務等の委託料や光熱水費が増えています。</p> <p>4. その他 その他収入の主なものは国庫補助金(インターネット配信システム整備費)や建物貸付収入(自動販売機)です。</p>								

取組の状況	
設置条例	八戸市美術館条例
運営方針等	八戸市新美術館整備基本構想、八戸市新美術館管理運営基本計画、八戸市新美術館中期運営計画
取組の内容	<p>1. 施設の特徴 「ひと」が活動する空間を大きく確保し、「もの」や「こと」を生み出す新しいかたちの美術館として旧美術館からの建替・新築で開館し、人を育み、まちや暮らしをより豊かなものとするための展覧会やプロジェクトを展開しています。</p> <p>2. 主な事業 (1) 展覧会開催・市民利用促進 当館コレクションの成り立ちや地元八戸ゆかりの作品の魅力を紹介する企画展、地元作家を中心とした収蔵品を独自の切り口で紹介するコレクション展(年4回)、大人から子どもまで全国的な人気を博す地元作家の回顧展、前衛的な手法で八戸ならではの風景を表現した写真展を開催するなど、地域ゆかりの美術作品を通して、八戸の芸術文化を継承・発展させていく役割を担うほか、貸館事業を通じて、文化活動を行う市民活動を支援するとともに、他分野と連携し、魅力的な企画を行うことで、アートに興味を持つ方々はもちろん、それ以外の方々にも足を運んでもらえるよう、美術館の利用促進を図ります。</p> <p>① 令和4年度入館者数 119,983人(令和4年4月1日～令和5年3月31日)</p>

## 取組の状況

### ② 展覧会観覧者数

展覧会名	観覧者数	会期(日数)	備考
コレクションラボ001「舟越保武展」	5,678人	R4.4.1~R4.6.20(70日)	観覧無料（会期はR4.3.19から）
持続するモノガタリ—語る・繋がる・育む 八戸市美術館コレクションから	3,141人	R4.4.1~R4.6.6(56日)	一般 800円、大学生以下 100円（会期はR4.3.19から）
まるごと馬場のぼる展 描いた つくった 楽しんだ ニャゴ！	21,068人	R4.7.2~R4.8.29(51日)	一般 1,000円、大学生・高校生 500円、中学生以下無料
佐藤時啓—八戸マジックランタン	6,305人	R4.10.29~R5.1.9(62日)	一般 800円、大学生・専門学生 400円、高校生以下無料
コレクションラボ002「地をみつめる」	9,809人	R4.9.10~R5.1.16(110日)	観覧無料
コレクションラボ003「七尾英鳳展」	2,239人	R5.1.21~R5.2.20(27日)	観覧無料
コレクションラボ004「伊藤二子展」	2,806人	R5.2.24~R5.3.31(25日)	観覧無料、会期はR4.4.10まで

### ③ 展覧会観覧者への割引制度

未就学児、小中学生は観覧無料

（八戸市と連携中核都市圏域町村（三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町））

項目	概要
かおパス	何度でも同じ展覧会を鑑賞できるフリーパス。展覧会ごとに料金を設定しており、会期内に初回登録すれば、2回目以降は当館入口に設置しているサーモカメラの顔認証システムにより認証
駐車場割引	近隣の駐車場を利用していることが分かる駐車券や駐車証明書の提示により、運転者1名分に団体料金を適用する割引
団体割引	20名以上は観覧料に割引を適用
シニア割引(市内圏域65歳以上割引)	八戸市と周辺町村にお住まいの65歳以上の方は観覧料に割引を適用
障がい者割引	障がい者手帳をお持ちの方とその付添者1名は観覧料に割引を適用

### ④ 貸館の実施状況

項目	件数	主な内容
貸館	56	書道展、絵画展、写真展、ワークショップ など

※年2回 貸館利用者説明会を実施(HPでは随時案内)

### (2) 各種プロジェクトの推進

美術館の特徴的な空間である「ジャイアントルーム」を拠点に、アーティストや市民等と一緒に交流しながら共同創作活動を行う各種プロジェクトを行うことで、アートを通じた出合いや学びにより、従来の立場や枠組みを超え、人を育み、アートがもたらす本質的な価値観に加え、新たな価値観(経済的価値、社会的価値)を生み出す等、まち全体の活力につなげます。

## 取組の状況

主なプロジェクト参加者数

ア. アートファーマープロジェクト

プロジェクト名	参加者数	開催日(開催期間)
きむらとしろうじんじん八戸野点 2022in美術館マエニワ	・プロジェクトメンバー 36人 ・イベント参加者数 210人	(プロジェクト期間)R4.6~10 (野点)R4.10.1
八戸市美術館建築ツアーガイド	・プロジェクトメンバー 16人 ・ガイドツアー参加者数 各回約10人	(講座)R4.10.29~12.10 (ガイド)毎月最終土曜日
リヤカメラプロジェクト	・プロジェクトメンバー 54人 ・イベント参加者 203人	(プロジェクト期間)R4.7.20~R4.11.6 (イベント期間)R4.10.9~R5.1.7

イ. 学校連携プロジェクト

プロジェクト・イベント名	開催日	内容
小中高合同鑑賞会プロジェクト	R4.8.10	小中高生が合同で作品を鑑賞し、それぞれのお気に入りの1作品について語り合う対話型鑑賞会(参加者数 20人)
美術館新聞部プロジェクト	R4.11.3~R5.3.31	小学生と高校生が、新聞をつくるプロジェクト。アーティストや周辺店舗への取材を行い記事を作成し、新聞第2号を発行(参加者16人)

ウ. アートの学び事業

プロジェクト・イベント名	開催日	内容
三校連携創作体験ワークショップ	R4.8.5~R5.3.31	八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部、八戸工業大学、八戸工業大学高等専門学校の3校の教員が講師となり、美術館の展覧会に関連したワークショップなどを開催(開催数:7回、参加者数:107人)
学生×社会人のアートの学び実践講座事業	R4.8.5~R5.3.31	公共空間の私的で自由な使い方をみんなで考え、実施するワークショップ(開催数:3回、参加者数25人)
美術館のアクセシビリティ向上事業	R4.8.5~R5.3.31	子育て世代が美術館に気軽に来館できる機会と、学生の実践的な学びの機会を創出するため、保育士を目指している学生が運営する託児スペースを開設(活動実績:8回、利用者数:60人)

エ. その他プロジェクト(抜粋)

プロジェクト・イベント名	開催日	内容
ジャイアント食堂	R4.6.25	ジャイアントルームと広場「マエニワ」にキッチンカーや飲食店が出店し、飲食しながらさまざまなアーティストのパフォーマンスや絵画を鑑賞(来場者数 4,065人)
11ぴきのねこ写真撮影会	R4.7.2~R4.8.29	「まるごと馬場のぼる展」にちなんで、11ぴきのねこと一緒に写真撮影(参加者数 700人)
トークイベント「マジックランタンと八戸ハウス」	R4.12.3	「佐藤時啓ー八戸マジックランタン」アーティストの佐藤時啓氏による撮影の裏側に関する話を紹介(参加者数 45人)
ほろよい鑑賞「ほろ8」	R4.10.7~R5.3.3	八戸焼二代窯元・渡辺真樹の制作したお猪口で八戸酒類(株)の旬の地酒をいただいた後、コレクションラボの展示作品を鑑賞(開催回数 6回、参加者数 49人)

(3)学校の社会科見学の受け入れ(令和4年度実績)

開館前から学校の社会科見学や修学旅行の受け入れを行っています。美術館スタッフが館内を案内して回るだけでなく、展示室の作品の前で座って模写するなどの取組も行っていきます。

項目	受入校数	生徒数	備考
社会科見学	23校	843人	市内:18校 669人/市外:5校 144人



3. 維持管理費と財源の見通しについて

○過去2年度における施設運営費の平均 (単位：千円)

支出	人に係る経費	94,995
	企画運営費	54,445
	施設の維持管理費	124,665
	うち、光熱水費	31,741
	うち、委託料	80,312
	合計	274,104
収入(財源)	使用料	13,156
	その他	11,164
	一般財源	249,784
	合計	274,104

(1)施設維持管理について

①施設維持管理の状況

美術館は、地域にゆかりのある作家の美術品を中心に、約3,000点の収蔵品を保管する収蔵庫を有しています。これらの収蔵品は、後世へ継承していかなければならない「地域の宝」であり、適切に保管する必要があります。このため、収蔵庫内は作品に合わせて24時間温湿度管理を維持しており、劣化した作品は修復するなど適切な対応が求められることから、一定の維持管理費を要しています。

また、他館から貴重な作品を借用して展示する場合は、展示室内の温湿度など空気環境のデータ提出を求められることから、展覧会開催の有無に関わらず、通年で展示室内の空気環境を保つ必要があります。ここにも一定の維持管理費を要しています。

美術館は令和3年11月に開館し、令和4年度から通年ベースでの営業となったため、警備・清掃業務や総合案内業務等の委託料や光熱水費が増えています。

②維持管理費削減の取組

全館でLED照明を設置し、高効率空調設備を導入するなど省エネルギー化が図られています。また、節電を意識的に行ってきたこともあり、当初見込みよりも光熱水費を抑えられていることから、引き続き、光熱水費の抑制に努めます。

(2)財源の見通しについて

貸館利用のように施設を占有する利用者からは受益者負担として施設使用料を徴収しています。一方で、収蔵品の保存や展覧会の企画・開催にかかる経費には、観覧料を徴収して財源に充てていますが、収蔵品は広く市民の財産であること、また、誰もが容易に美術作品を鑑賞したり、文化芸術活動に参加できる機会を提供する必要があるという観点から、市税や地方交付税などの一般財源を充てることで、観覧料を低廉なものとしています。また、建物貸付収入や、各種補助金・助成制度を活用するなど、一般財源以外の財源確保に努めていきます。

<参考写真>



<ジャイアント食堂>



<展覧会>



<アートファーマープロジェクト>



<学校連携プロジェクト>



<ほろ酔い鑑賞「ほろ8」>



<市民の貸館展示>